

令和6年度第1回広島市公民館運営審議会 会議要旨

日時	令和6年7月26日(金) 午前10時30分～11時30分		
場所	広島市中区役所 3階 第2会議室		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	1人
出席者	委員 ：中尾常信、縄手淳子、西川富江、森重洋、岩元佳子、大坪眞理子、山川肖美 事務局 ：中谷市民局次長、木本生涯学習課長、甲斐主査、中村主事 区調整公民館長 ：梶山館長（中区）、平野課長（東区）、浅木館長（南区）、原館長（西区）、 太田館長（安佐南区）、藤井館長（安佐北区）、女鳥課長（安芸区）、倉橋課長（佐伯区） (公財)広島市文化財団 ：国府田次長		
資料名	・令和6年度第1回広島市公民館運営審議会次第 ・資料1 令和5年度事業報告について ・資料2 令和6年度事業計画について ・参考資料1 広島市公民館学習会の実施方針（体系）対照表 ・参考資料2 第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（概要） ・参考資料3 広島市公民館運営審議会関係法令（抜粋） ・参考資料4 広島市公民館運営審議会委員名簿		

議事（会議要旨）

1 開会

2 議事

〈委員長挨拶〉

山川委員長

今年度は、策定した計画を作り直す時期に来ている自治体が多いように思う。

私は、10年前から、いくつかの自治体の総合計画の策定に関わっているが、この10年間で、計画を作る段階から、市民の意見を反映させて、市民と一緒にまちづくりをしていくという機運が高まっていると感じる。

また、私が関わっている自治体以外でも、このプロセスを取り入れようとする動きがあるように思う。そうした点からも、市民参画の下支えをしつつ、市民参画の文化や風土を作ることができる公民館の役割は、ますます重要になると考える。

公民館が講座を実施し、利用者がそこに参加するという関係だけでなく、利用する側から「こういうことをやりたい」と働きかけることのできる関係性があることで、その地域の良さや魅力を住民自ら維持・向上させたり地域課題に自ら取り組んだりする機運が生まれ、結果、地域の持続に関わってくるのではないだろうか。今回の公民館運営審議会の資料はこれまでと変わらないが、公民館の在り方について審議し、利用者と公民館それぞれにとって、より良い施設になるためのご意見をいただければと思う。

(1) 令和5年度事業報告について

〈説明〉

資料1に沿って説明（木本生涯学習課長）

〈質疑等〉

岩元委員

5ページ目の資料の利用件数の推移の縦軸の単位は人ではなく件ではないでしょうか。

木本生涯学習課長

修正する。

森重委員

公民館として、各事業のアンケートの満足度をどのように捉えているのかお聞きしたい。

木本生涯学習課長

基本的には、アンケートの内容を確認して、それぞれの事業内容について振り返りをした上で、次の事業の改善につなげている。

森重委員

アンケートの満足度は100パーセントだと良いと思うが、そうはいかない事業もあると思う。利用者の思いと公民館の思いに差があるのだろうか。

山川委員長

公民館館長の方から、実情も踏まえた形でお話いただけるとありがたい。

平野二葉公民館長

アンケートは、どうしても好意的に書かれる傾向があると考えているため、実際の満足度が回答どおりか、懐疑的に見ている。

二葉公民館では、回答項目のうち、満足していない項目に注目しており、コメント欄で改善点等が記述してあれば、それを次の事業計画に生かしている。

アンケートのコメントと、公民館側の思いが異なるときには、事業の意図が伝わっていないのか、利用者の求めている事業と違うのではないかと職員の中で事業内容を見直している。

山川委員長

資料の1-2の6ページにある、各公民館の高齢化率だけ見ても、館によって随分違っていることから、エリアによって利用者が満足する事業にも特性があると考えます。公民館によって異なる地域の特性も含めて分析をしていただいていることが分かった。

縄手委員

私は、ふだんから公民館の職員の方とよく話をしており、その会話の中でいろいろな意見を伝えているため、アンケートについて特に意識をして書いていないことが多い。

講座への参加者が、どの程度関心を持ってアンケートを書いているのか分からないが、アンケートに「こうしてほしい、ああしてほしい」といった意見がどのくらい記載されているのか。

平野二葉公民館長

二葉公民館の場合であれば、コメントが書かれているのは大体半分から3分の1であると感じる。「少し声が聞き取りにくかった」など、細かな不満についてのコメントもあるが、大体はその講座を受講して、自分の生活の中でどう活かしていきたいかというような前向きなコメントが多い。

様々なことに興味を持たれている方は記述が多く、自分の興味がそそられることを探している

方は、白紙であったりする。

アンケートや、ふだんから職員と会話をしている方から、要望を聞き取り、それらを参考にして次の企画を考えている。

岩元委員

参加者の半分はイベントが終わると満足して帰ろうという気分になり、満足度をデータにするという意識が薄いように思う。アンケートにも「よかった」、「ありがとう」とだけ書いて帰られることも多い。私は、公民館でイベントを開催する側であるため、アンケートを配る際に、今後の参考にするため、意見を記入するよう案内していただけるとありがたい。

山川委員長

アンケートの様式を変えなくても、配布する際の声かけ一つで、参加者のアンケートに対する意識が変わるだろうという意見をいただいたので参考にしてみたい。

木本生涯学習課長

いただいたご意見を今後の参考にしたい。

山川委員長

参加者に対してのみアンケートを取っているため、公民館に来ていない人の潜在的なニーズは、ここからでは読み取れない。公民館の職員の皆さんにおいては、その点を配慮しつつ、地域のニーズをどのようにくみ取っていけばよいのか継続して検討を進めていただきたい。

中尾委員

6 ページの公民館の利用状況について、社会福祉協議会の方が昔の資料を保存しており、温品公民館の利用者数について、20年前は現在の2倍の7万人近くの利用者があったと教えていただいた。地域によっては、新興団地が増えたことで利用者が増えている館もあるのではないかとと思うが、利用者の減少は少子高齢化の影響が大きいのだろうか。

山川委員長

各地域の人口の増減と利用者数の比率について提示できるデータがあるか。難しい場合は可能な範囲で次の審議会で情報提供していただきたい。

木本生涯学習課長

各地域の人口と利用者数の比率については手元に資料がないため、次回以降の審議会で情報提供できるか検討したい。なお、5ページのグラフのとおり、利用者数は新型コロナウイルス感染症対策の影響で大きく変動しており、利用者全体としては、平成29年度以降減少していることが分かる。利用件数の方も少し減少している状況が見える。

山川委員長

福田公民館は、6,793人に対して、利用者が3万8,312件となっており、1人当たり6回近く利用している。他の公民館は人口に対して利用件数が約2倍であるため、非常に利用頻度が

高い館であることが分かる。もちろんコロナ禍の影響もあると思うが、他の可能性も含めて可能な範囲で分析できるデータがあれば情報提供していただきたい。

西川委員

アンケートの回答項目は、毎回内容が全て一緒であるため、講座によっては書きづらいものや、書けない場合もある。

山川委員長

時々ご指摘をいただくが、公民館で行うアンケートがどういう位置付けになっているのか、説明していただきたい。

木本生涯学習課長

公民館で実施するアンケートは、指定管理業務の業績評価に使用するため、基本的な回答項目は共通している。公民館によっては講座ごとにアレンジをしている場合もあると思う。

山川委員長

指定管理者制度の中で、指定管理を受けている施設においては、アンケートを実施する際には共通の項目を提示されていると聞いている。そこへ、各館で公民館事業の改善に関する回答項目を加える等の変更は難しいだろうか。

木本生涯学習課長

御意見を踏まえて、改善を検討する。

山川委員長

参加者の考えを吸い上げ、事業に反映し改善するサイクルを展開するため、回答項目がそのサイクルに適合する項目かどうか、適合しないのであれば、変更が可能かどうか検討していただきたい。

山川委員長

5ページのグラフにある利用者数の推移を、平成31年と令和5年で比べると、ピンクの部分の主催事業が平成31年度利用者数の7割に達していないのに対して、利用件数はほぼ同数に回復している。このことについて、参加人数を減らし主催事業を実施されているのか、それとも、それぞれの主催事業の参加者自体が戻ってきていないのかお聞きしたい。

木本生涯学習課長

参加者数に制限をかけている事業の影響と、1事業当たりの利用者数が減少していることにより平成31年の利用者数まで戻っていない影響の両方があると考えている。

山川委員長

コロナを経験していく中で、人数を少なくして事業を多種類にした方が、地域のニーズに合うという分析や、参加者を多く集める講座よりも、交流を深めるような講座の方が今は必要ではな

いかといった積極的な分析をして、できるだけ多くの主催講座を実施していくという考えなのか。
館長から感覚的にでもよいので教えていただきたい。

原草津公民館長

この件（利用件数はほぼ同数に回復しているにもかかわらず、利用者数が平成31年の水準まで戻っていないこと）については、当館の運営委員会でも話題になった。実施件数は新型コロナウイルス流行前の件数に戻ってきているが、新型コロナウイルス感染の可能性を考え、参加人数を制限している講座もある。

例えば、新型コロナウイルス流行前は、コンサートの開催で利用している大集会室の定員を120名にしていたところを、コロナ禍以降は100名にしており、また、コンサート等、事業の参加者人数自体も制限したため、利用人数の伸びは抑えられている。

森重委員

公民館だよりにはいろいろな事業の案内が掲載されており、人数を制限する事業と制限しない事業があると思う。制限をしている事業は、ほとんどが定員に達するのだろうか。また、講座に係る経費や、講師が対応できる人数によって参加人数を制限しているのかお聞きしたい。

原草津公民館長

草津公民館について言えば、公民館だよりに掲載した講座の多くは、定員に達している。応募者が多い場合は、当初開催を予定していた部屋を変更したり、参加人数を増やせるか講師方と相談したりするなどして、なるべく多くの方に参加してもらえるように調整する講座もある。

山川委員長

新型コロナウイルス感染対策も緩和され、公民館に利用者が少しずつ戻っていく中で、どれだけ利用者と呼び込めるか試行錯誤の最中だと思う。これまで実施してきた事業の良い点を次の事業へ取り入れつつ、新しいニーズが出てきたら、それを踏まえて事業を展開していただきたい。

引き続き、どのような要因が利用者数の増減に関係しているのか分析をお願いしたい。

(2) 令和6年度事業計画について

〈説明〉

資料2に沿って説明（木本生涯学習課長）

山川委員長

第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理では、社会教育人材の質的向上や量的拡大を図ることについて述べられている。公民館の職員の方々もこの人材の1つであり、特に専門性が高い職業として、社会教育を担っていただいている。

社会教育に関連する資格に、社会教育主事や社会教育士があるが、社会教育士の資格は一般の方でも取得が可能であるため、社会教育士という形で社会教育を推進する人材が地域や民間へ入ってくる可能性はある。私も社会教育主事や社会教育士の養成課程を大学で担当しており、毎年、公民館で実習生を受入れてもらっている。この実習生の人数は年々増加しており、今までは1桁で推移をしてきていたところ、今年度は22名となった。公民館の利用者のうち65歳以上が増

加し、25歳以下が徐々に減少していると説明を受けたが、社会教育の支援をしたいという人材は増えている可能性がある。社会教育においては、支援する側とされる側が流動的であるため、社会教育士として関わっていく若い世代が、支援を必要とする側にもなり得るため、状況によって役割を受け止めていただきたいと思っている。

岩元委員

アンケートの回答に、満足、やや満足が多いと講師としてはモチベーションが上がる。そうではない意見も、自分が講師として提供した内容を振り返る良い機会となるため、フィードバックをする上で大変参考になっている。

孤立や孤独が社会問題となり、数年前に孤立孤独担当大臣が任命されているが、この問題の対策として、社会的処方、学習の処方が挙げられている。地域とのつながりや学習の場を提供する公民館は、孤独や孤独対策のための大事な柱の一つになっていくのではないと思う。

令和6年の計画について、私自身、家庭教育学級などを公民館で開催しているが、PTAの在り方が変化しており、PTA役員や会員が減少しているため、PTA活動に従事する人が足りていない状況である。このような中で、公民館において家庭教育学級を今後どのように進めていけばよいのか、公民館の方と検討しながら進めていかなければならないと思う。

山川委員長

PTAや家庭支援などの活動を通して地域活動に参加していくことは、1つの有効な手段であるため、その点を意識して今年度の事業を実施してご報告をいただきたい。

平野二葉公民館長

二葉公民館がある中学校区には3つの小学校区があり、ある小学校ではほとんどの保護者がPTAに参加しているが、ある小学校では半分以下の参加となっているというように、学校によってPTAへの加入状況に隔たりがある。

現在活動しているPTAに関しても、活動できる方に協力してもらうという形態をとっていることから、開催する行事の数や内容を絞り込み、活動できる方の負担をできるだけ少なくしていると聞いている。年度途中でもPTAの会員数に変動がある状況であるため、学校関係者やPTAと情報共有しながら、これまでPTAと協力して行ってきた事業を、25歳以上、65歳以下の世代の方を取り込みながら、どのように展開していくのか検討しているところである。

山川委員長

PTAは社会教育に関わる団体に位置付いているため、社会教育における重要な人的資源だと思う。家庭教育学級は、乳幼児学級に焦点を当てがちだが、乳幼児から高校生まで家庭教育は続いていくため、PTAとの連携が重要となる。PTAという、組織的なつながりやパートナーとしてのつながりが揺らいでいる状況の中で、委員の皆様の方からも、どのような方法でPTAとつながっているかご助言をいただくと、公民館事業の実施のための参考になると思う。

森重委員

公民館の事業を見ると、乳幼児を対象とした講座が多い一方で、小学校、中学校、高等学校の保護者に対しての取組が少ないと感じる。私は以前、学校の教育現場にいたが、最近のPTA会長は

若くなっており、PTAの運営そのものが昔とは変わっている部分があると感じる。

矢野公民館の公民館まつりのボランティアとして、高校生に様々な準備を手伝ってもらっているが、そこから保護者とのつながりを持つことは難しいと思う。小学校でもPTAで懇談会などを行うが、集まる保護者の人数は減少しており、授業参観後の懇談会には参加しない保護者も多いのでつながりを作ることは大変難しい。高校生になると進学等で地域を離れるこどもも多いと思うが、接し方の難しい思春期のこどもを地域全体で育てることに公民館も協力していただきたい。

大坪委員

公民館で社会教育主事の実習をする大学生は、小中学校の頃に公民館や地域の方との関わりがあったことから社会教育に関心を持っていたのか。もしくは、大学に入って勉強したいと思った方が多いのか山川委員長にお尋ねしたい。

先日、三篠公民館で公民館の行事を手伝ってもらうためのボランティアを募集していたので応募してみた。その際に考えたことだが、シニア世代の元気な方に対して、公民館事業へのボランティアの参加を呼びかけてはどうだろうか。生き生きポイントがもらえるようにすれば、多くの方が集まると思う。

私の周りには、公民館は選挙で行く場所というイメージを持っている人が多いため、公民館が、自分の立場を認めてもらい、生き甲斐を感じられる場所であることを、ボランティア活動や講座に参加することを通して知ってほしいと思う。また、利用者がそのように思える雰囲気や公民館に作っていただきたい。

山川委員長

つながりを作ることは、どの年代にとっても重要である。孤立化する可能性がある世代に対して、社会的処方という観点から、公民館がどのようにアプローチできるのか考えていただきたい。

また、本学の学生が社会教育主事の資格を取得する動機について、2つ挙げられる。1つは学校教育について興味があり、学校教育において社会教育と連携していくことが今後重要となると考えているためであること。もう1つは、大学に進学するまでに、地域の方にお世話になっており、どの地域でもいいので、恩返しをしたいという思いから社会教育について勉強してみたいと考えているためである。仕事として活かしたいという思いも聞く。公民館や地域の方の力というのは、若い人を育てるための大きな原動力になるのだと思う。

森重委員

現在、公民館において、中学生や小学生の職場体験はあるのか。

平野二葉公民館長

新型コロナウイルスが流行し、感染対策を徹底していた時期は中止していたが、今年度は8月に、中学生の職場体験を予定している。徐々に職場体験等の実施回数も増えてくると思う。

西川委員

私が関わってきた活動が、学生の社会教育を学ぶきっかけになっているかもしれないと思うと、とても嬉しく思う。公民館へ来ているこども達との関わりを大事にすれば、社会教育人材の育成

に繋がってくるんだなと思うと、将来に対して明かりが見えた気がする。

山川委員長

長時間になったが、熱心にご意見、ご支援いただいた。終了予定時刻になったのでこれをもって本日の会議を閉会する。